盥觴無底抄

特別
へ 12
1077
37

宮内省圖書寮

利
1077
3637

特
12
1077
37

抑年

四十八歲

正月未門猪病重事

未門猪牛文お女三宮事

殆仕大臣ハ葛木山験者事

未門猪与小侍従語事

見女三宮御返事事

女三宮生男子事　薫大将是也

女三宮荆面源氏望出家事

山御門織後六条院法事見女三宮法事
女三宮薨去事
同物氣現形事　六条御息所
未門籍任検大納言事
大将若見授大納言廣事
一条天皇御代大将給事
二月拾日大納言事
三月若若五十日事
源氏尺若若誦示天詩事

四月大後一条宮給事
母御息所荆妻事
大将参詣仕大原殿法事
女見一条御息所取寄事
四月大将又後一条宮事
同息所荆妻給事
秋若公匂宮給事

柳葉

元 巻名 以詞并歌并図

河 かつらぎ山葉ちはやぶる神もそまさすせし
人うらもとへきこゑしものまとをかり

元 源氏四十八歳の春秋はてしなん
えらりさいらし 堂誕生し給ひ并
源氏十八歳の正月より秋の末まを
日と若葉下ハ四十七歳十月まを
私詞ニハかつらぎ山葉し根ちくあり

赤門のうへの君　秘

衛門と申せし云　河

庵のそこなりし　弁

原の中八ゆせ

おもしろかりしおけく

秘　はゝ木申ゆゝ　図

はしたもかゝへき

又母よさきにて申ひとさせんまゝ

ゆゝハゆゝて

つゝとりるへきさまとゝ

ゆゝハゆゝかゝ

るのゝ沢ゆゝのゝ

秘　御政ゆゝ

私ゆゝ

ひとりるのゝ

元 まつひろハ女三ゑもゆしろこよ信ろもきこ
あさこさかとまてめしてせてまさうもまと
秘 女三ゑもとりろ〜〜〜まうと弁
なんての世中すこまうら
源 なくこのうち方ひとりのうこさかり
あんてれ世ともうこつうあ
笑 川哥 用 秘弁 云川哥
源 いけくうう世をはいもゑ兵ゑそ

笑 用 秘弁 秘哥〜何はかりの哥異之
世にもちまあくもおかぬ
女三の山寺ゑれ也よ物ゑ感
きれゑ千ゑ歌の松うぬ
何 うくも世うり心乃物れうかくぬこの
ゑれもちゑせの松うなくみ何
人あもをうこうち也くれぬくさ
秘 今うくなりくみ〜八女三ゑもうも也

あくすろ事とやいむすんと
あきのあれとも　秘　元　女三文殿事
ひとりのあれとなり　辛
ひとりのひとりもえめり
経　夏山の方をいろいろみるすもも
ひとりきひよりてらりもり
秘　辛　四月　辛
れをへもをうぬみを
秘　京方の女三文殿のあかいろ
へていろいろとものとひとりをせ
かりと心とは　秘　源の氏の礼よ考えて考えばいろ
元　源氏の礼ろりとひとりをせ
いのものとりあて
平朝より源てハ人の根ハ
ろりのいあらきの　辛妙　秘妙
うう浦と源てさすみ光いさす（三と）
うやかくなく　秘　狩てしあ風るるる
枕のさあり

河花
なき〳〵河〳〵なりてうき瀬りハ
菱もさゝまみえすそありける

同
用意　尋　秘不用之
かしこみ御前に　女三宮への

秘
今ハかきりまて侍り
小侍従すへの文　同女三宮へノ文ノ詞
私女之ノ乳人ノ小侍従まてつかはす返
思ふことも申さゝして

秘
病者なさ申や

柏木
いまはとてもえむけふりもむすほほれたえぬ
おもひのなをやのこら牟

河
むねのほむらもえむけふりといふ世牟
きこえこみこゝろよふかきこゝろをと
その世代を後をもいひしこを牟
りなむもゆるのむすほほれて

秘
絶果の煙しは世よとゝまりぬへきかなは

同
思ひきえわハ消えてしまふ
あはれとも云ふの給へせよ
御情愁の一言あらハまつ冥暗のやみをもてらさんと

侍従めてうすけよりあるうまを
幸　柳まれのとれ笑い
侍従へしもおよえあわとみえあり
こりへしもしもいりうたりうたりり
侍従せ柳まれのへ妹うれいを
おうけうさん
女三宮よりいうまを
見もきのあすうの
秘　宮れ侍従之元

河
人れ世を老ぬてあ世ぬうは
きのあれもいそうさまり
岡川之幸秘　女三れ侍従ときのう
あすのやうよりすりり世ろのす
幸のあれうりはあり主ぬと
れ年上（ごろう）のたうしぬやうりはあ祇
秘　幸よれ光　岡
河れしやううあはとしうあ
秘侍従

そうきをなん人の
ありくよまかうぬ
源のありくなのりすまうり
かこみまいりぬ
柏木のりと人伯屋うゆくと
おくハ　秘　又おくと
うせきまいり
葛城山　大和　七（シチ）高山（タカヤマ）ノ異一也
（河）
武内宿ニ　役者小角　住於葛城山有傳
ニ触使兒沖　役水採薪者不用命所
以呪縛之ゝ
文武天皇代人道仕事歟
仏法さなれ山ぬ
役仕たる寺山のもの寺演者なと
とすませ
ゝ給さなれ
れより柏木のもとひさなる
かなるもとぬまるきと

いはまて尊子ノ地也

このこゝろしも

弄　おもひの色對面しまよとも

秘　かへりまゐりてのちおもひの

今對面しての後をいへり

まへしは思ひなしまへ

弄おそろしさ心　秘　つくしさき色深

おそろしき也　関河　まぢしハ月也

まへの身の哉めさハ　河　池羅尼

秘

世継物語時平公三男敦忠中納言なら

まへひきたる時藥師經をよませ給ひけるに

みすゝのうちにびしり大將と云を聞きて

わなゝきてさとおもひよりてそれ

まに死給ぬ臆病の人りいひつくり

時平公三男敦忠中納言天慶六年三月

七日薨卅八 彼病悩の時十二神の名宮毘

羅大將と云をきゝて心よくらんと思ふ

して絶入給事あり　弄

私云筆ハ敦忠ノ兄八條大将保忠ノ筆ト
小野縁起ニハ見えたり然一勅之奏上ニ笑
乃末ニ右将軍ノ塚ニ葬られて書
夕霧ノ浦ニ移りしも保忠ノ筆ノ柳と
保忠ニ思ひよせてかきたるとおぼゆ

おとゝハさまざま心ある
柳木ノ絲より柳よりおもひを彼は志る給ふ
をもひしりたまふの

子ならぬハ先うの所しきるる物となし
むかひぬのに思ひさゝみある所に柳を大切にし
ぬなに宣しくうけておもひたる事と云
うきさとは柳を大切にと云ひ給ひしにかく
對面ありし事なるれ
弁
きせるきたる事ぬ隣者もよむ事と心歳し
あまこさくゆまへ
桃
柳の絲と又おもしろの細とききて小約
姫よそれしのさまわり

[illegible]

秘 女三宮の霊なるべしとて

[illegible]

は 伊勢物語よりかなるとよみてきこえ

つるとは[illegible]

てきれば此女のいとこのうへと申女とは

[illegible]

あるのうなりれば[illegible]

ねをとりあつめ女ともとうみ

弁 業平二条后とのもとかくしまゐらせ給

れをひとりうう

秘 源ノ氏威えハ一族なりとも

[illegible]

弁 今ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 試ノ時のしるせ

弁 あやまちもきよをハ兩ノ[illegible]

乃幸うえ[illegible]あやまちり
おそれ
[illegible]の分あるこ[illegible]
の
窓をひてうくさそよかの[illegible]
中く分あをかあ[illegible]ばりあり
は
川代寺　辛秘会く
むをひこあ[illegible]よ
の
四ひあまり先あり　むのあはうん
[illegible]くはむ[illegible]ひ[illegible]よ

図秘　辛会し
[illegible]あるあやせ[illegible]ん
柏木の女三[illegible]さ海とこひやる
い海さ[illegible]みこの[illegible]よ
秘あ[illegible]ら[illegible]
この世ハ[illegible]
秘一念会量初せ
なりき世[illegible]
辛
女三[illegible]

私一念五百生繫念無量劫ノ頌
心をましき事を
秘 懐妊の事 之平安なるときて無事之
えり菱を心ひとりよ
秘 猫の事 并
口 見若葉巻下
利ハいとうとておそろしう
秘 女三宮ノ御ためおそろしきほと小袖
なへるを

あられなく見てしのゝすゝ
小侍従か心なり
それをわり見給へて
秘 文の御返事なり
心にしらしきよりいゝてかハゆさとしく
りのこゝんとおるハ
秘 文の相衛門督の病体をしらせのこ
ちる事ハあらしとおるハ卜ハ草子記
やしとし是古事ノ説之 今案心得

[illegible]ハ[illegible]てハ[illegible]
とのこゝとあるハトハおノ柏ノ[illegible]
きしぬ[illegible]ひの[illegible]やぬんとあるとう[illegible]
[illegible]ー[illegible]さて山歌よ煙[illegible]とハ
[illegible]や紙ハ只[illegible]紙とハ[illegible]て
悪[illegible]ノ紙よ[illegible]ー[illegible]
寿
廿三文ノ紙[illegible]
[illegible]
柏木の[illegible]

てゝ[illegible]
[illegible]と云[illegible]とあるハの紙ハ双紙乃
[illegible]文の紙[illegible]
山見ハ下云紙双紙と云事[illegible]
文の紙ノ[illegible]柏木[illegible]
[illegible]
[illegible]山歌
図
[illegible]
九ハおノ柏ノ[illegible]

そのかの人のことをとるべきやといはせ
れたるこそあるべきなり
私は義秘の人今東又国の義面白
又私云今ゆうゆうは柏の香気
の事　いうてうはは女三の方ヨリいたて
うすみをよはうんとやうすみ
そりとは只仏中に抵量ニ比べる分
りうとせ　のうんとわうはは柏の事
の未こそなる思ひの利やのうんと

あるとイへりさて方ト来ノ胡ト見てさ
こてあり　は義なり
色女三文
あらそひてきしやうきうれたる
そひみうをきりうてあり
私柏の紙屋の烟は女三を比て消
あるは柏ノ香思ひの利やのうんと
ようしの文をうたきしは比ひのはる
所はあるしるの仏て見まそのんかな
りをいうをうをうしるあきうえうは

花をたくしやさし以後綱ときこて

秘

色の花姻ならし色ハ花ひとあらそ

門裏 順徳 哥合ニ行路柳と云定家

みちのくの野原の柳かたくなに

あはれ花ひのきよりくし色や

此哥を院 後鳥羽院 御覧ありて 抹ハ

定家は猶勅勘ありけるとて 井蛙抄ニモ載り

秘

いでやこのきあり

此御哥こそ 此世の四季ニよて侍れせ

流色しるあしらふ金すこしく

秘

又流れをふまへて

詞のつきとあり

綱さてもあらまほし

あやしさ鳥の跡の流しまて

私見ハ人の倉頡の筆跡の流れのうへ

しることいふ也

河

蒼頡観鳥跡作文字 史記

帝王世紀曰蒼頡又取像鳥跡始作文

字史官之作蓋自此始記其言行
策而藏之名曰書鈔
文選注 ゆくえもなくそらにけぶりのぼりてとゝちはそれ
ぞ
弄ハありのまゝなるべし　弄秘書之
タハこゝて
秘 川ゆくゑ　只煙とうんゝの心の
図 川歌なり　只タハ烟のけふせ
弄 川弄あるうんゝ　ゝとゝとタハコキテ
弄一説に名ゐるなり　ココニモ烟タチタヤ
トムテ十カメ　ムイ人モイノ程ムヤ古弄と
て人ノ語ム　たゝくハ烟とうんゝ時節
ムけ　ゆ上弄
うあきこゝえさせ　ゆ上
秘 我ゆうくなる　ゆ上
ゝとうり
かゝみゆりて
ゝれまてみ　ゆ上

[illegible]

小侍従よりかへりまゐらせ給ふ

いまさうしの人あやしと

秘 筆ゆゑと人の子色きよとて

きいハせごゝろみせんとて　河長朝　秘

云ハ盗ハ盗ハ[illegible]

[illegible]

侍従ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 侍従ゝ姫ゝ

なるゝ[illegible]

秘 物ハ[illegible]

[illegible]

秘 侍従の乳ぜ

おとゝ[illegible]

[illegible]

秘 侍の[illegible]

[illegible]

幸
源氏のとうの中将の人のまひたる
うんとてはまよはれ行うをみよ入うを
むまれ給ぬ

秘 董波せ　幸

いとしうあさうつき

秘 拍子うつ似てうを
あれ男君うを源の有も
おすせ
入うをうきき

元 心ゑすさかしとハあこてといを
秘 男子ハうをとさうよ三条行うを
うぬ方なわと源氏をひうを女
うハあひをうあ源ひかて
ところり　幸
きしあやしゑ

元 冷泉院の中宮せ
秘 源乃男ひてうを
ましてをけうとひ此一切もひと

多り 幸

これせまてかくまひをゐ事よりはつり
秘 世まてむとひとれい後世ハさりも
こゝのりしきと
心おとろ清きてまて
秘 ことの心をさとる人のまり人なし
昔人夜中文れゆきさり
幸 秋好中宮おりりせな
幸 世中文明石中文ゆ未れ羽こおゆ

を幸 ニトアり
私ニ秋好中文せ大屋を事とハ西年
こおとしくしきと云と未り羽こ流反
上人こあり乞冷泉流せ
幸

れ西こんしきさ
は 園基 花食事事 新若菜巻り
幸 世れ西多すし
こゝろしれきゆり流のまてべらゆれ世つぎわ

（ハ）
所饗　廳　長次所
私ハ源氏ノ院司ともせ
文つさ大まより
（秘）中文大まうり寺
（ハ）宮司　中文職　大まる亮進ハ下せ
院ノ殿上人
（秘）冷泉院せ
四ちり　今上せ
ちーノおせ

柳生氏所方なこ大さの状ハ
さうさうこなり
（秘）ハ花ハ
ちあそひこと
文ハさうさうひ
ハ女三のハ中をもり
さくれハハいて
（秘）ちうきれおそ
（秘）下ハあくこひませ

[illegible]

[illegible]

ふおりまする

似おりまする源氏物語の中ゝ

人の[illegible]成へし　ゆゝしきまで

たゝしまする[illegible]

かきみゝり　秘　[illegible]

さのこと

[illegible]

[illegible]

世中のうれきと

秘　源の詞

[illegible]花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 家の法詞

かゝる人ハつゝをもんなるを

産ノ道ミとゝまて死ぬる人をはこせと

こゝい思わり

そまミめやいさゝ海る

中家ノ功徳まていさゝりやらんとゝ

なくみ侍とも

うせ給ひし女御氏事とゝ

此御の法もとゝひゝりハ

おくれさゝゆまの給へるかこそて

ハ女之氏称おもかくしきや

いとうさて中しきゝ　秘 源乃詞

さゝ家事ハさのこゝそ　産ノ事や

流御氏らゝりハ　秘 源ノ心仲之

此流ハ中家ノ事源も御りハ能見く

之ひのよなり

心とき給へる

秘 女三宮ノ源氏ニ心をとき給へるとの事

私ハ源ノかさりはとなるを
と秘弁ノ義なる我ちうしも思
ひるとをまうといてさこ分り
とうみ人のくとうしろ
女三ノ女をおせは時しまるを
まもうていてせみさいえあるま
しきとよ人のみとうへ
院をもの　朱雀
れたらく智ノうまる
秘　源ノ親

かうりとうんゆるうんもあいうるうあ
ちうきれハ
秘　紫上せちうきこありせ弁
山乃見うは　朱雀せ
さうりうりうる人の
女三ノ立舞後れさ海へ
院のいと立うう
私年寄へてをて行る時ちもれ
笑ノ吋れ弁面ありていよ行く

おすすめ
女三ノ宮ノ琴ノ音ハ（今一度御対面ありて
やすらかに
ほとゝぎすをもせさせ給
琴ノ音（女三ノ宮の心をつくし（参ノ巻）
いとあはれなるかな
琴ノ音ハ心中
たゝれいてさせ給ふ
夜よりかくまいせ

河
孝部王記云延長八年九月十八日甲戌
皇御大持流奉訪上先是上殿侍長
弁備法皇御座用大床子二脚鋪物上加
輦し（奉渡法皇御座傍）服息而詠霊
男女別ゝ法皇御幸加侍事相從
以時代法名事有
源也

あるの乃流
世中をうのゝとまりの
桜
琴ノ音流の伝説

為うとはまきうまうて

図 老少不定うれをせ 白理花定少不定

この世はせうも

当時の人乃そ

うまうくみてまうりの

朱雀の清水寺ノ海と源うまうく

そのとき 寺 源頼朝すを源

うひ給清水

はてはまうり

秘 源の頼

女三はおうまう清水ノ寺、朱雀ノ花と

なうり

文をとうりはくうひ

女三うひはくてうひ

なすきてはてはゆの下おうりせ

朱雀への清水礼せ

よのうはせうの

秘 流ノ清頼

東北 加持僧

まうきんはくうり

は 験 寛平法皇 はかり給まん

身おかつうておもえ

図 験者などの中よりおもはれ多あり世あり

てんりとなされゆえくらとさうぶ

うんしゃれと

文をいとまをけり

女三れさ海人生てある様に業あり

身さらとと生産へみりを

さ海れかいあるハ 秘 流の伝

ゆ まことをき人ハ

秘

月未よりこれあるハかりて人のそ

見行海しとと

私ヒと金れれこうるハ秘伝引

かうるとはり まことをみあり

ううきまるとてうとれ生産の

用捨也

おくれ君よかうんすこのをを

源氏人女これ心中と生産作彩之

源氏院号以後也 此巻もあり

の流れにのり
年毎房さとの日来(ニコロ)一つを成まよ
り毎月ごとに殿の御所に招請仕
れもうしの事
私すでに此法を八女子の發願して
のみより後
それ毎月けうとく
笠 出家の功德 後世の毎月ごとに成(ニナリ)
日ごろをかくまんの為と 秘 源ノ頌
きけるに人ぞ心をづくして
邪教
おれものを一つも 源ノ頌
秘 流ノ頌 物のをれと成ともあ
るべしさ年月てもあらんとて
此ぞうらうハ
年 雀流乃此ぞうらせ 秘
さとを九さ十さくらと
源ノ年ごろ女子八津をとうり年

とおもせ

多よそそうゝきこし

源のうしきを半産乃者り

生てうゝ人事まてい家ゝ

世ゝよゝひつゝ所もゝ

おそせしもゝ

かゝる物りもてゝゝれ

秘 今さゝはゝ何せゝゝ人ゝれ

せとうゝゝゝ

秘 今かゝしゝ人事ハかゝゝ

しとゝ

秘 ゝ時ゝ

源ゝ連信ゝ所ゝ

ゝゝ時ゝとゝ

大かゝゝゝゝふゝ

秘 ゝゝゝゝゝ

かゝ源ゝハゝ

ゝゝゝゝ

私云 秘 ノ義いかに海女之事歟
ともたゝさるかりしかとも源ノ義
まはあへさる海と書とも
あるをもとさるそもつよ
寄 女三宮源氏をもむさのゆかりとて
なるてとゝそまをありをとゝ
さるゝ
秘
源をそはさるひろとゝ
私あるをもとゝ海よハ書
しるもも私たるもしろとの
みはさんとあり
秘 三条家茎はせ取
私 茎蓋より女三のの處方せ
源せ
かのはゝを
さいもいとをろよハ
さいはよいもたもたるの
ろうり源ノ津略ハあるとゝ

それゆえ人々
れ有生れうよ源の姫宮のかたと定
しそんとの年産ノ時神
いむ事うを法そんとに
秘戒とうを法りんとなして法師ず法
うしと業すうも
源ノ女こへのうらと業ぜ
るかいくそ仏ものさ
秘源ゆえの女こ
川八法くろ八法ひてこと
源の女ことさ海くうこ
ちらりていとけうの法も
女三ゆさ海ど源ノ中ゆ年とけ
そあるあくのの法あす
つまうてうしゆと
寺女三女の
八うこすんあうこ
こうきこうき八ゆ中ふ

源の年代をしらんとて
やまとふねよりあずまの明るをみるに
かりいんりうたる　年産院の作
さきりこさかりめり入て
女三ノ宮おもへめり今ハ簾中に
おもくハ思しのびあるべし
源氏乃ハ三位
流るゝ
年産ハ別して女三宮御産ノ時
ませハ三宮まうしうけて八人よ
そ引ゆりあるて源をゆり
ろしみ引ゆしゝ
かゝてしもゆいうみて
中宮もせもせて平安ノ時ませと
明るゝ
年産ノ所ハ
うゝ
文ハ孔子ノ
女三ノ宮

えだをそなへまゐらせ給へる
牛蒡（の女房）これはいとゆかしひの花
むらさきおかしく毎日うゑたてさし
なおよ牛蒡六条院（へ）みゆきし
給へるとし
桜
ゆうかんせるきぬ
源ノかこきりうの花とえみ給
せるとし年
らうがくしき
祇園きき花を
おとさうり
まさしく法山（に）参りてゆえよりの
世中はきのあすよ　牛蒡ノ内侍
かの法華経のみさりのまき
まさしく法人しうてて
桜
女三宮をあるをまゐらせてと年
法かいはあるさもなど
源氏のをとよハさりてめとりと

さるにかへりて

松

院よりゆきくしけ院の門ゝ侍ゆ人つき
事もいとゝ人しきゝ山ゝとうとき侍
ゆ人つきあるゝとゝ
侍よりきゝひて物まゐりまゐりまゐりく
侍箱ゝ物こゝきゝひて所略あるなし
侍人侍ゝゝ見ハらと 井蓮ゝトル
のあゝ侍の我ゝ
さゝゐかゝまゝく

松

源ノ河
侍のもかゝとあひきゝひ侍ゝ女ニの
はゝ赤の中ニ心をみゝまて侍事も
えゝきゝまゝあゝとあゝも 井蓮ノ侍ル
中ゝ侍ゝ安ゝ
中女ニノはひゝうまゝとゝ侍ゝ
蓮ノおゝすハ侍ゝ侍ゝ成ゝ
ゝゝのはゝゝゝ侍ゝのをいてゝ

は

後東

はかゝ持

は

はは長谷の観音霊験人ひとりとはうたと
ぞしハ紫上はは申とゝのえ
かこうこうこうあり
秘 紫上をいつくり
辛 紫上ゝうあるとゝ
西亜ゝうり
いなハかりゝんとてゝうゝ
は 光源氏物語 小一条院女御 弘徽殿
ゝて法堂の安れ久しくゝうひ
るゝれて
人ゝつきていまゝそうまゝれても
とゝうゝてゝひゝ
いとおもうゝ
女三ノ宮は出家もおのもれさせうなる
角ゝさてかくいゝ
文をゝこゝいさおゝ
扇のもれさりゝゝ
いゝひゝうおゝゝ

中宮一の人にて
かくてとゝまりぬるに
此中宮はてしも法命のあまりとて
うるはしき事を
女三位中宮のまゝとて柏のまゝにて
頻とりさた
女房
秘 藤業房也 寄
さてみまうの法ゝん中ハ

藤業房ノ法仕の法方へまうの法
ハ云月也柏ノ又おもて世界たのも
りをひる行へとゝん法ゝんなとり
とゝ又此ゝはよりまうの法ゝんいろく
しきまゝとかりくせ
かの方りうくしてい法一ゝひ
寄 柏木の女二宮の世方へまりてゝん事
ひんとゝ
秘 柏木一条宮へ一ゝひ宮へゝゝ

秘

[illegible]

[illegible]

秘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘

[illegible]

秘

[illegible]

秘

[illegible]

秘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ふり事柏り心
[illegible]
秘 不堪[illegible]事
[illegible]心さしおりて
秘 柏木[illegible]の事を母上へ[illegible]
いてあるゆゑしとそれをまもりて
秘 柏木よりそれてしかるべきことをもとる
右大弁の君より
秘 後より紅梅の右大臣と以[illegible]心事

[illegible]母北方にてなきあとをうらぶれ
[illegible]
心[illegible]のとゝ
[illegible]れより柏木心ちいのよう
事を云
[illegible]
高平任官例
柏木 任大納言 人のとゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

任大納言殿より仕とつて申候て里一
条殿参内しあんとあるべきよし
とのさまもうさる
とりさまあるべきと見参よりいよいよ
秘
く任大納言より推任うけてあるべ
とうとうあるべきこと
大将若
并
夕雪或申たる大将さし推任事未見と
但若年上と見エタル歟　私ハ上并私ハ
右大将ハ
はるかしかも
秘
異進と加せ
あおくすあいたりこうとみと
を馬車
是も異進と賀すう人のてひか
さはと事のけいてよかさうは
おさあり事事之
推事高りとりさまと

とゝ〳〵きこえさせ給
夕雲れあかつきの花成一
こゝまでうつしハ色もいとめ〳〵しく侍て
柏木の手ハ所〳〵に花まてハ射面うつ岩
久〳〵く連歌すとみえ侍れも
あまり高とりあつかこ今一てひ連歌
えんの射面なりこ一
平
えんちくうまてハ射面〳〵かてゝとも
なに成こゝろよいく珍紙〳〵いとらうさ
さ海よ侍つゝこを
はな
栄花物語巻第四殿上の花の中に関白よ
うり法はうつ小弟家成まうり
法つかうまうとりやのみとおもてゝひ
いまこゝもてまつりうつ山ゝ射面
ありてみうり花いとあ侍よ
かりいてハうてゝ侍ゝ弟ゝ
平よつまてしものゝうちふ侍ひ
約束とさせうまもうさ花さとく

ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]て[illegible]人今ハかゝるより
てゆゑハ公私よつてなつて大小事も申会
ひとゝ[illegible]ハ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]
らうゝゝしきかゝり[illegible]門[illegible]
こまやかふの[illegible]ゆゑ[illegible]
いさゝ[illegible]
みとゝ吹[illegible]
[illegible]ハれ[illegible]
人[illegible]

[illegible]ゆゑ　高中[illegible]ノ任官[illegible]
対面の[illegible]ト[illegible]
[illegible]

秘　幼[illegible]せ　物ノ[illegible]ノ中
[illegible]　釈[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

秘　夕[illegible]
[illegible]

秘　夕[illegible]

主よハうはゆるこひり
任官の後よ心ものもうなんと少秀れ
思ふさまもあきさとうけくえ
いとゆかしう
秘
柏木ノ詞なり
忠おりしなり
白衣まて烏帽子なりうきはゐし
おもしのあとりおさまりに
高木みこその月気奇物之

色せさるおひぬるしと
河
巃荘子
斧
損しぬる心 巃
ひきしうそひ給へる
秘
久きりの詞
とれさきこゆへそてうくとそて
はおれ
むかしの露かしとれ吉川くや世中れ
とくれさわらのあしなかさん
遍照
私諸於不及川哥
何事みちくとうり給ふて

西乃海とをしふるなり

心はとりくるまもらめと

松

柳生乃詞

月見へでよりの物りよりれく

花もちくるまよりくるうとせ

いまハうしなと

河

堤心

いのり乳うとのちりあや一

行桜之乳うとして命ハうしなと

さしハ身のあるこをていさまさ

くるまれく柳ノ心ハ死期といく

なちすうとこ

さるハこれ世の　されれ　みさりかこり事

ハ多しとこ

松

こうこにあ　きこと　まこ

ゆうより

者ものつうまりさて

又母よさこうこてハ者行とてとこ

まもうぬこ　さて活句禁弱式か

くはの事

若よつゝまつる事もうゝとれ給て

河

五十を強仕と礼記よいありうゝ柏

秘

本校大細言今立年共あこの給

河海説いくあ

てうせ給うとゝ事

力をうゝ人はかゝ

礼記ハ世間立身成へし此流の

うゝ柳西のしゝ

孝經云文孝始於事親中於事君終於立身（名ニ ミヲ） 開宗明義章第一

此ゝをのつゝみ給 笠子集

又ゝ云ゝよ

ゝ云のゝ

ゝ云のゝ

何ゝハゝ

今ゝのきゝよ中

こゝゝれあまゝりのゝれと

幸 柳生清

兄弟ゝ

せゝ雪よりそかくるゝ世をこそ
まつうれしけれ
なれらふかしこまりり
物ゝの中よりあやまりあり
世中なりけり
源のおそれかゆゑの名
かくれこそ
ゆれ賀試主自
集所
ゆれまりとゝとゝてまりり

源のそゝ酔とうての法し時本
いゝ世よるゝ角ゝ人もも
およんなりそうとあまハいゝせきり
人ゝすゝはあり
秘源ハ人ゝすとハますきもれとゝ
いるりざりもんうとれ
ゆ詭言　年秘
りうゝれりの世れ海ゆけ
今せこそひゆとまれゝ勿論後

世ノさうもうの風ことに
おきてめでさせ給へ
夕雲よ源へ戻れきの人と
ものうん行くらを
死をん後ものも
ゆかりじゆうさしかたん

芳辭　勅撰

心のうちよおもひあるする
夕雲ハなの心えうう女ことに信妙ことに
中をしてハ中くそひらうさうし
いうもうれこうれあめうは

秘　夕雲ノ詞

かくとうり行人ものを
柳を花色ことに神を源もうけさうもと
うもかくあるすまもすあうそハ
源ハ何ことに意孰もうさこさうあるう
柳ノ四ことそまあハうくの名ばり
そうこたた右方ことうこうあうと

うりゝ高ゆ
源のかこまりゆ高のはりこうと
梅花の折ゆ人よゝ雪の別て後梅
よ四ゝ
きにいさかしひまあわつる
梅ゆの同年
きゆわとこゝを命をうりうる
こゝゆ命のかゝを
以伊勢ゝ
此折りゆくみちとハゝ雪ゆゝと
きゆゝ年ゝとハさゝまを
今日不知死明日不知死何故惜花梅
安穏元年身雪山鳥喝云
私式年ゝ月ニ不及者ゝ年祝ゆ
同ニハ日
ゆゝいゝゝ折
源氏ハゝ花ゆゝちいゝ折人ゝ
ゝ折ゝゝ
一条ゆゝゆ折ゝ

秘 藤業家

院うちまゐさうしまれ

年萩院の御事

出させ給ひねしてなくさてこそ

よ撞や柏のわとはいくそよまてまね

さうさうしうちゆりさ海し

うくいて給ひぬ

夕雲の御かりまし

女御をいさうめいくす 秘 冷泉院御

辛 柏平のいうと 弘徽殿

大将乃御て 秘 雲井の御方心 辛

右の大殿の御てて

辛 舞男の宝 もうてや 秘 もうてや

なむくうう給は 河 まれてはなる人うよ高れ

御のより御てはむくうり

辛 秘 竹 給 物 我 之

女宮にもつひにえたいめんしきこえ給はて

秘 落葉宮之 弄

あはのきえいるやうにて

柏木の終焉也

河 世皆不牢固 如水沫泡焔 法華経

幻世春来夢 浮世水上泡 白氏文集

こゝろしなれぬなかそ

花 是ハ女二宮の事也

秘 柏木も女二宮との中也

つきなしともおもひし

秘 うらむへきふしもおもはれぬ女宮の御心

なくなしかつまけり

弄 柏木の命をうしなはるゝまても女宮を

もとよりさやうにあはれなると思ひ給也

御息所といはるゝ人へは

秘 落葉の母みやす所也

私 皇女ならとのゆるしなきよしなるを

まさき事なるを給ふにいきぬ流浪の人

やとゝ有ノ之人ひろまゝせ
おゝ小の方うとハまりていたんこうゝ我
ゝさゝゝゝ失人
花
武流云後仕方ハ清盛公の御事ハ雅
くゝと見て給りかの右京門様ハ教盛卿
が将のおゝくゝよさゝたちそうなる
ゝとゝ見えりまのゆゝ紅梅の右京ハ
廉義公の異腹進ゝ給り廉義公ハ平ノ右
大弁とゝ申ゝ世ゝ世ゝ有ます
乃かゝゝり教盛ノ将ハ世の人も
ゝてゝるとゝ申てまゝりあれハおゝく
清盛公
まゝゝゝぬ人もありまゝり東路ゝ
ゝれもゝりてゝゝゝゝ色ゝりまゝ
あまゝゝハおゝゝゝゝゝ
松
女三宮ゝゝり柳まとゝゝてゝゝ
ゝゝゝゝ事
ゝ君ハ世事を

蓋と物すのゆゑ
らるゝ事なひぬ
女三文字はさはらず
六ツ名いのかたより
秘 ゆゑ
物かたりさるゝ所
秘 嬰児はらむ
のあ張りハはゝを
はゝいさゝやうり

秘 源の組
きいのはあり海まて
秘 さはゝ久ゝすハうまつるゝ事
ひしみとゝ
秘 源の性奇物ゝ
はいうまもいまて世話ゝ
河 河 辛口解
大鏡云ハ作者時ゝ 村上ゝ
ゝるはいの解 殿上ゝ

伊勢中将ノ家つとめ多分ハ
なをるより　一とせよこひそめ
ハりそせまて月けとみむとて
しはやすみ　はれせさるおりまて
けりかうきをうきよいとひつるてあま
るまて百とせ過もつきせぬ月とそみ
かくちとうなれさるを
秘　尼文まてまいりすとひろ
院ちとうなるのひて
浦

なをなり女よりの給たること
秘　男よりうれハ山ほとの殺ハ尼ハ
ふしうまりきこせ事
おなしもの
女よりハ女のおもかしめ
ていまんとこ
りしの名をきめ
なの名ハ根なの屋とをてぬ
いとをうをうゆさ

河

六条流入道文のうち 若右衛門殿より
ゆうふくのうちにてゆうしゅうのゆえに
以陶之 一流云々とひ柳生ノ方ともに
女之文のはしに 殺仕方の道あり
ちらよさかとまくゆうを色こうわと
いゆうこ右衛門殿ノ五句はゆうにてのもの
殺の義あること 異加はあむこにあく
とあるこ

秘

河海抄 苦こ 終

私これ〳〵源の実ようねとの
てゆうふまてあす 我ノ源ノ守り
かくゆさゆうの四とみくゆり

秘

はれくれもこの世のうちの
さらを尼のこの髪をゆくゆ和ゆれなを

苦

苦ハ 重尼 にて 今ノ世ノ唱会ゆうれ
よひこハ髪とも又ハ髪ともむとみ
ゆうト 初云 ハ ゆうこゆうとて
ゆうこゆうれハうしろハこれこちめも

みはるかすとうちきるとハ花や紅葉を
ハかれ果てゝ枝ばかりなるを紅葉とハきるなり
みるべしなり

五十をひさ屋ありてのゝ浦ノ
浦ノ浦

いとゝちいさき
女三文ばかり浦
ばかりをとハ和ゝ
女三ばかりとうりとんでなり

河 意尼

すきゝ〳〵こゝ桜ばかり
寄 色〳〵さくうりなり衣の袖 私ばかり
桜ばかりせ
ニテモ
なり
なるべし 又遠〳〵 ハ人ヤズキ
なるべし

海屋ノ文なり
河 今様文紅也 聽色ともに今ノ多ノ
云〳〵 見延喜 紅よりうつて ハ移ろ
一文として紅に撰すり時ハいまなり

[illegible]と云こ　水原抄

寄上こゝろ　紅梅しらはたて又深紅にも

うすくそめ[illegible]

うたてきこゝろもの

うつろひたるこゝろの[illegible]

いてあれて[illegible]

秘　源ノ朝

すこしそこ[illegible]

[illegible]

秘　[illegible]

[illegible]

秘　[illegible]

[illegible]

秘　[illegible]

[illegible]

秘　[illegible]

[illegible]

秘　[illegible]

[illegible]

河　[illegible]

[illegible]

竹川家より

秘 あの不思議なる事とうりあるたらせ

いまはとくおりてきのれて

秘 くれようり給とく源と一回者

きのれ給をやこ

はんとしいたひすて

源をいたひたんあれ女この源もの

とこりくきりくしくたうあ（きとこ

かくふさ海の人ハ

秘 文のれ紙や世とそもむさきてあ方か

きとこ

ひふれきや者りきあかくも

秘 源ノ紙 物すり事 りたよあり事

あそれのうりきくあさ世り

秘 源氏老者えしこ 形恒う寿 いまこう

よ何ひそくむ竹れよのくさぬ

きけさ世とハきくすやのたあき

礼云横笛巻尽くり筆れ分とそあて

如来あわうとみ合てみよ者也
ち持うとのちこれ人
ひ
夕雲はれおもれらしハあと
女御の笑くら
秘 明石女御くるれ文の半身
ゆうきりうて 秘 王相あると
は 王気付式王家ゆくしませはあく
まもせ
四ひ
ひ

秘 相ふふくろうり
まこのれのくに 秘 眼ノ中せ身
は 眼子 遊仙窟 人肝膽 横彼 眼尾ふて
ものり
文ハさくを
女三乃文ハ清らん
さくひくこうさん
源ノ心中くりくるいこ
ものハさくをいこ

蓋し五十日の祝せ
三川まゐりてうけたまはるよ
秘
樂天の白
河海よりみえたり
五十八翁方有後輩思慮喜亦慮嗟
持盃従頷之絶詩偈勿須思似汝希
白樂天才五十八自嘲詩八句
王天八子うして老このそむつせ年八
りてくらの下男子とまれむまれ
ゐ事とそさよりて生涯とうれ
よしもひて徒見詩と六年歳八年
八とて蓋高とをすせ年とすり
もそうとありなり年ゆり 解説伊行
天三八三月ゆよ
かうく白氏文集ノ世月何是歌一首
塵室塵と云ふを我多り解事
五十八をいと成うすてゆり
秘
源氏四十八年
年
王天ゆ詩河海よみえ多り 長年八

といへり

いとおかしけれり

源ノ心中なり

海(ナレヤ)けり、みともいさめまほしけり

弄「承天ヵ句を引て柏木の事を表裏

息り薫よ對して又よ似事おもはしき之

秘 集天ヵ句を引て柏木の事を下よ思わ

薫よ對して実父の似たるを思すらんと

草子地のとかくりて いへかや 此さき

さぬうらし此物語の肝一ともいふへし(秘説)

二乃事の心しまる

秘 女三と柏木ノ妹之 弄

御さたいふんりハ

伊 あたなんハたらんや二をいふて男した

めりたと女の源さあるたんなりにせ

今一ノ義不知所署之

秘 よろこめおりハ女の源多あるしたと

源ノ心ひはしし源ともぬ非勝之

弄源氏ノ残カノところハ

れ花のあやまりて人の姿をあらんとしるハ此花之女房のうつしめとのうつし

秘　葉せ

いとなみ侍りし

心ゑさん人ハ

秘　人のこひうらめしきまゝ

人をあしとも

あやまちなれとあらしとも

秘　我仕たる柏木の母上とも

うれさかりし

辛　私のうしろかみのうすく浦後

の事ゝやゝ心ヨリアイ者ハ私ハ中ヨリ

夕ナリテ一紙ヲ　笠辛

思ひあまりをよをけ

柏木ハ在生の事海と源乃宰相也

人くもうかれ

秘　れ抗ることゝ源ハ

これ人をはいくらんそ

秘　源ノ親

ふらちあって

女三宮

侍
さて世のうつりかはるとて人々
いとかなしうなげきあへり
侍
侍らいとうの小雲ゆゑ世のうつり
変代をけてゆくねとまきこまん
弁引は京の北野うちより出る道
秘同は秋を川を北へはたらまほし
こゝろ色さそそと西白京
乳母の移り
侍
深川
女三のれさ色せ

おとゝりと弟せる
秘
源もとゝりと云ふ
いかゝ思ひすゝん
秘
女の源氏、柏木とはいかゝ思ひ
源氏思ひ
ゆゝみそゝ
弁
女三女ゝ
大将若ハ
秘
こゝろ々雲柏木の遺言の事を

思ひなせ

とこ〻ろ物おもひ

侍

物まゐりたまへと

ゆりあらいひて

来給へ

の不審うち

秘

かの君たちも

秘

物まゐり連枝せ

女房のたまはせ

侍

夕霧の心

秘

夕霧はいかゞ

二条の人はさこそ

紫上のおもとハ

ゆゑ

思ひてこそ

この歌ゆゑ思ひ

秘

物まゐ女こそ

秘

物まゐりこそ

四位殿より
いとゝりて三河殿
秘
柳まつ花 と云ゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
秘
大丈夫にて
[illegible]
[illegible]

秘
因果うう〳〵出て源ノ[illegible]
女房より
秘
雲井の房之事
[illegible]
柳ノ遺言
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

私家集

はるさめのふりてはかなくはかなくしぬ
はかなくの時代はかなくぞくハ僧都希絶
うせれる

君こそはかなくく
兄弟姉妹うせる

右大弁の君　紅梅

れしきこうせる
桜　殺はかなく法　実　又母しんとまたうすハ

不孝うせる　弟
みちをこけ
冥途のさくりよりと　弟
一条内文ハ
寺　女二宮　柏木　宮
桜　柏木ハ源氏の対面うさまと
さてこうつひうも　紙一人ハ
柏木（さてこくなる人ハ
ともつまの人ハ

あるこ[illegible]

同 大鏡云相撲節のとゐんうちあき
[illegible]
九日の節ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秘 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

尋 諸人の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秘 [illegible]
[illegible]

故殿ハ柳生と
大将とのゝ事ゝ
秘 第一の心
弁 ほとゝぎすいとゝ
弁の君事柳生と
柳生の兄弟と
秘 ゆるし取て
夕雾あるて
いとゝ事とゝ

秘 夕雾ノ絹 弁
さうゝ人ゝ
兄弟親類
別ゝ
ゝ
秘 一条殿の事
秘 ゝし

あんかうハ生ものとて
をきれうかたきもの
物まねさうもく夕雪のとをり
ものなり

沖ノさうた　沖　日本紀　沖廻

秘　二月ハ沖事をきれうの事
二月年中行事こゝろ
あらうらいさゆくり
立ゆくこゝろ　もいろあて今と

延引事あるとき
おなじ道ハ
辛　況や女二文ハ中ゆくいわ
かくかれかうひ
秘　夫妻ノ中ゆり
ゆくうらゆあいあわ
夕雪の御祓
あれうは
秘　ハ昌泰紀　辛　年りなうひ七

えひさ海てもとかり
こしはとりぬる人
はやをそ示しおもれ事をいふ
さしみおもしいりゐる
秘 落葉宮のはさ海し　弄　女宮親ノ事
いましてかへて
は是非ノ命なりさ也
かくさしたり
弄 柏木ノ事と又小侍従（落葉宮）ノあやうく成事也
とあつうちきゝはからひ
秘 柏木と夕霧とを云　弄
ものあつくうきひきゝこてさふしまと
秘 此文を柏木にありそ給事は是まてある
ましき事也
弄 柏木ノかくへいすゝめかりし也
我は此女ノ詞は是非ノ義なりけしとあわ
此ノ詞みゝ見てぬりてハは是非ノ義乱
川なりし事との源氏や　弄

こたへられんとさてはよりあはせ弁

秘 はれ是ハ[illegible]

段仕り無切[illegible]

さてハ我ら別[illegible]

後よハ[illegible]

みつれんのかとあんたらも

秘 いなられんつてくいひてあるとすると和

とやせ弁

はれハあるかもし

そまとかくうあ世[illegible]

みはてまとと弁

みこあらハ

秘 あるこらハあるうちたらより

まま年儀と思ハ苦ゝして

しせうとうりとと

いうとみて

秘 中[illegible]

行うハかあ[illegible]

はしはひれるそうむるく[illegible]

ぬひてもとの所かの事ども
四子ども

はるのあひのあひしくよ

秘 夕雲れ雪りの結ぼれ八今ゝ迄花
人ゝてハ多ひの〳〵ゆるみとみり身
ハかのれちり

元 故右衛門殿ハ二条の御門四子屋敷に
もとてさりしとぼのさに二条ゝ
御事みし遣言ゝとゝ行ゝ

うさくみもうまきせハまを行ゆ
とてハ長なさきの歌
秘 梅本存生れはハしまを思ふ柳よ
あさりゝ加ゝよ遣ゝ行
ふときけハあわかゝまゝ
うれもうまきさせハまを行ゆとて
いうゝみいゝ

は うゝ行ゝきゝうゝ
ゝうまを梅ハなゝうゝ

私は寺川こ不及
あやしう　元　見しらりハ赤門稽りまと
大将り法のあと
秘　夕雲和尚　柳生り性と云
こよりそよりとけ
秘　柳生り性といふを八井れ
かゝ為ゑてや
早世あんとてみまと思会すと
あまり世ゝとりをとひり申

元　赤門稽のそうとうあひらよみ
八世間の中とふうけき紛(ふせれ)
かうせすしてハ法(まう)よろまて
秘　かりり
寄のを理して世るの業りゝと
為人と
すしてかあ為ゝりうてかあ
秘　已不及
弟　変又已不及のをとうを八明事

もうしたくるうとも
えたくるよ物をせずはうすを乾浮くくし
うりすみなるものをひとをとるよ
水原物云ちるなしあまとなるなしあまよ
ちさるなかまをいひなれもなさをて
ふさまもあまりをめれかあ有様用
うるうしせ　私流わり　以上海
かりてあさやるるなかるのれすまく
元　うなかうりとしはよるいまをなうり

くかるうるうさなるなを
おるしやをてさあるなをいる物
よあさやさるるはゆるさなるる
とうすくるるひうれをさのりは
なよるをなるなるいさめしまとり
旁代かるわるるを
明るる物るる方せなるはあるりやを
てるなするあし運いさめしと
丈　するとてはいとをとすさるるさ海

さかりなる人はいとやさしくかなしく和歌
のうたさなどもよりあり物がたりなども
書通の哥うえるさまもいと

心あさしと

秋 夕雁とはんあさきこゝろおとくまさせ
ゝりもしもよまさり

秋 あれもいとさわてあ二三年ばかり

らんとかゝる生すとぞんをれをせ
かの若ハ三年

秋 柳はハ夕雁ゝりも三年ハ先ゝ年
五六年間ゴロリとセ　只イトトセムトセトヨム（こゝ但り
ニテモ　しはお三二三年トゝり日あトゝ

あいてれて
は
うちひるとうをとひとりを
ちまこハいとすくうみ
夕雁ゝ　健（スケ）
ものしき

柳はよきこ四

寿
男しきそ　秘
ちとせとりけと
はの　姫の草ゝ姫の情しゝ花なりし
こせしくりハ是をあはさけ
いまくしきこそとりもれハ
寿
久方ゝ女二宮と祝ゝしあはよろく
年いくそ姫の花
それあひくん年くそのたり　図
あひくんちとせ

秘
ちとせとりハの寿いまくしきそ
ちとせとりハ久方ゝ女二宮と
為すそれとりてあひくん年くそ
あくんとくりよとう
はの　是とに花乃ちりそなくん
あひくんくはいのちとりもり
私はゝ前の川寿法師一日ゝ越えて
くしあのこくりハのゝハゝよくら
ゆひくん法くりまていまくしと思

ひてはまたひとへにあらぬ
のみとはいとゝひとりみのいまはしき
はかなきすりもの寄ハ源草紙
かくれゝ人ハ時ゝ人ハ寄ゝれ
ゝていはんとあり

久方

ゝ
かゝ枝うまれ
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

秘 [illegible]

私今一首書しるし侍べ[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

寄 花の月雪とて [illegible]

[illegible]

いとゞやさくらもあるりとハ

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

して八月ばかりにもなりぬ
ものもうらもけ
はけよ
これ人の子まうけ
や親ノ喪よりもかうばしくあまりて
あるかまたべきてけちえハ三年の
ものを者といはれぬべきなり
しかるべきけうぬ
寄親の者ハ
はう
孝經曰　孝子之喪親也　子母役斬衰居安不樂聞樂不食旨味思慕而已
弗依礼亡容　斬衰哭
依餘音也喪事質々素無容儀所
以主於長也
親ノ喪ニハ
されしかれいはゆる後相逢ノ親や
つまうとうと一義云段仕方と
より三年の喪ノ時も
大概ならとりそれ

母子乃孝養の世ちしは世を捨け
ちやつまこうしいはを
みをてまつりをふしより
夕雲ノ殺仕とゝ
はゝ中ゝくゝのしはけり
殺仕ノ心　夕雲
一条の文ゝ
夕雲はかりをゝ
殺仕ゝよさとゝ

殺乃さはといふ
さゝ人ゝ

清吾郎ノ返歌ハ
なのこゝ
常ハかゝりをゝ
むハゝとゝ
殺仕のゝ
をゝ

源ゝ

若れ〳〵若れ

秘 殿仕方の事

参上の事七事

とあるうちかたの事

女はきて（おぬ）はうれしき事なれども

おりうの事のすくなきこと

ちくしかたし

事 拍子の事といふ

たゞさ位よつてあひなのむ人〳〵

秘 ちれは官位の事はいつすとこ

私式義後ノ詞ノ注之ノ減之

私式義不書 是ハ拍子ハ祝拍ハ人ノ習ニつきて人ノ習ニ祝参とこのむ

や拍用（家礼の家とて生ずる者

のまや

おとろさくらはうう

拍子とものうし人ぞそさ海

かうかうきこりひハ

事 拍子の事と云て弱くハ官位ものよ

もゝ山の手まいきてくらしてかゝりし
と言のゝしり
けうさくなる
秘 我ハ官位しまいるとハ思ふすると
宣とあるさてうゝめのゝ
寿礼 大元を言ふ者人れかゝしのハ
如ゝ
ハ 川寄りより不用ゝ
私只打あるさ元をとゝむゝハ
人のさ海
ゝ
ゝ
ハ ゝゝれの雲れあきとゝ海ゝよ
なゝ
此歌よりゝすゝ
きゝめゝゝめゝよ
秘 ゝ雪ノゝれいてゝまゝりてゝと
寿 雪ノゝゝひ海ゝ日ゝこゝまなゝ
めゝゝと妙せく

さいれんみうり

秘 みやとのれ京のそこにかさゝ人のゆ

珍作 本れ一多の事うり ゆまこてさゝさ四ゆ

かすしのうちもきしこ海ゆ云れ

秘 ゆノ脇ゝ嬌ゆ ゝうゝうてゝゆすした

ゆ云みうせうり

弁 墨ノ心ゆうせうり同云ゆノ脇衣を釈

ゆすうゆ事うりゆうはゆ 一首釈

ノゆノ脇をゆすうゆ事勿論せゆも

真方せ

ゆ 本れ一ゆゆうゆ事ゆ打すて

色々多方有 うゆゝ人もゆうはゆうり事事打すて

ゆのゆすし者ゆきゝ

秘 梅本も四ひうを海ゆきゝ

弁 紅梅の如ゝ四一

弁者 張衣ゝやれゝれ衣れれきれ

ゆゝうゆゝきうゆ衣のうりきん

秘 永月の月ゝうゆ云ゝゝうゝゝ

なれきこえたてまつりハよもうさぶらを
大将殿の御方
秘　雲井の雁
殿ハいかゝ
幸　夕霧　御方と　秘　夕霧
大将殿とハ御心ばせと対してもり
かの一条殿にてもよろこびひ
藤業殿と夕霧のとうぬ
日ごろ殿の方ハ本末

をとこうの新緑の時ふる
まいのもとうの御方
秘　夕霧うり
幸　夕霧一条殿にもとり
ものしたりしあとこと
秘　あるもうさ風せと
物のかたし　秘　かたくなれをと　幸
一せ藤もものりまよ
ほか　ものうへ　一せ　藤出れ御方

志賀の野邊ともなりよけるか
私は京利基中將うゝうりてのぼり
のゝ海をみてゝあらし河を過ぬ
西の方

虫の音ゝゝん秋

私おゝ川の水は虫の音けさの秋
の海は夜ゝれは虫の音ゝん秋を思ひ
やりてゝけり此歌只多藤乃
きゝりあゝさ初あゝれゝ

虫の音ゝけゝん秋はいゝゝんせゝ
を聞りゝゝ

秋

果子僧正ノ哥

夕ゝりの一ゝ虫の音ゝゝ秋をあさゝ
ゝゝゝてゝ

秋

伊与簾　芦簾

秋

脈若ノ簾

脈若ノ所ノ簾ゝ　図云　いよすけをゝ
ゝ　拾本巻ゝ哥ゝ　簾ゝ　ゝて　ゝ本せ

服者ノ家ノ中へ入ル　一答喪家ニ
かくのごとくの
物あはれなるなり
秘　衣くしてハあまとも袖をうれたる
きゝハとれこまゐ行へハ
辛　夕雾ハ笠ハ四ツ入ル　嘉遇
女　きゝハ海氣をうきんゐまゝ行ろん
とゝくきこえまゝ
ハ中を行ろ
ハ中をあいさつぬかゝ
かゝるもうえてせ
秘　連理ゐ
辛　夕雾女房よんとけゐたゝ
連理ノ枝
ハ　在地頭ゐ連理枝　長恨歌
答　ごとくなるゝの枝
ゐ　ゐ沖の枝
ゐ　こゝゐ

心之業うるれば本ハ門徒ニなるべき
如此うるはしき柳ハ枝もよく柳みなる
枝よりてあるべき夜清の清のゆるしを
うるべきこと　重宇神柳をうる
と奉後流しさし
時　　
時　　
因りうるみうりぬるうるの柳ハ
寿　　
おとうるハ如此うるべきうるの枝
うるべき枝よりまんと　後撰　柳枝

大臣こうるこの家よりてあり
業うるの家ノ柳ハゆるしとハ柳遺言流
りうるあり
柳ハ業りうれば柳のまうしの家を
きうてれ柳しをうるさうれ
大和物語云柳枝後仲平　りうるおの
家よ柳ハノのけうをおりよとうるれ
色りけうれうせてうるさつまてまてまり
我宿といふうるうるうるなるれ家の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すこしまてまいりのぶまをゆき
ハなをもうしきこと後撰拾遺花の贈答
とりてうもり
私はを歌ハ歌業ノ弁とりてうた
らつをうゑけるの業
はかるの流伝の風流ゆうこうあ
後さ中とこ
私業手沢のゆうあわきもおとつを
てハ深ハ行へ為をとらつをうりとい

成へ一ハ将ノてうへていう頌歌業文
のいとこころを中書取ノあいこ
うもこ世中を
秘
はる所ノ河
かまくしくて
思ひよつこて思を道河きーとこ
おのかうもけくハ
秘
夕雲ノ頌
うりのまさうへこたて

一此文をきしりハ心ノ奥ヲ行ヘ
黄ムノ心ニサキ手ヲハアラサキトヲヘリ心ノ奥フカキ心ニヤ
一あるれいふ人ちうのまうとをうをへておすんとハ拍
本ノ女ニ思りうましき手とをうを拍子ノ遊ヲフカキこれ心ニ学色
一みやまより人ノ心ひあさく 念法ニ去ル人ノ気ワケうしなを
ひををなトワトうをりワるれりアル、トヲアメリ
ワメリトヲ例ノ
一さるまうきを心とまを子人きをあり こをやをさしも
サノこフカ、うメ人ニムワハしナントセンハサニアニキトイルルや
条ノ眷見ノ俳業ノ心を明人ノ性りくメらアル

并
女二文ノ手をとメ秀ノ心ニおりひてをひ
とひきを行ひ手ニ
あをれきをいをみ人ちうをれるを手を
枕 中をうをうを人ニをを
ヨ 夕雪ノ心中ニ前ニ赤ノ心とおりひや更
かをを北きをてまをれを
枕 女ニをりをかををハ中をり行をんやを
なをてみやめをりを人をを四ひ ありをり又
をををまをきを心をををを子人ををを海れや

秘 いろなうけきてからうあるあるうとて
さすふかうりあるう
私云てさのからうあふあるせうせハ
てきとしぬてうけうけうけまし
以平敬ノ心をとりてさすたにとうけや
以上事
これ家こそきしらう
義 夕雪の四ノ巻
秘 夕雪ノ巻之

平 女二宮ノ事をとりて雪ノ心こそひてうて
とひきてはひ事之
あそれきみいなみ人うそれうなる事を
秘 中そうう人ととと
よ 夕雪ノ巻中こ歌ふ事ノ心とまひや更
かて北きてまりて
秘 女二りをかてらハ事りはそんせと
なてみめみりへとて四ひ あこ事ノ之
なまりきる心とまて人きれさ海れや

花

人間のかなしさは不足なるゆゑにて人と
あらそひあるものなれば公とせしてな
りてあれとゝみさかまきさりとハれ
人間のとうゝふさうハそなりに
とまりとゝまりすきハあるものなれ
よさゝまぬとさかあるといそり

桜

世間のくといふもりみなかとなるをれ
二せはこうハなしてなるなへまれとゝ
さかあるやとハさかゝのまといふハさか
ゝのとゝ
私義なり義いさゝうなかなこゝあるを
見るあるもりて人と思ひあるもも
とりみ義なりきとハ人ぬ
あるものさもはるまきとゝ人間
らとてなをとまとハさんもさかあるき
やをひりてゆけハなゝ所あ
りとゝ方ノ四ゝとゝ世義ゝ
いかハれむとうり

辛

此詞ハ南方ひろく

なむしゝハ柏木ハ四ひきなり

ゝ

辛

ものゝしうそろゝ

辛

ものけすこうるゝ

何

史ゝけものゝ

かのゝゝハ　柏木ゝ　辛　源氏ノ事

秘

源氏ノ事ゝ　ゝ　今案柏木ゝ

ゝいんものゝ

辛

ゝいなつゝて源ゝみゝ　光ゝ

柏木ノ事ゝ　ゝ　紫ゝ　院ノ御房

ハ源をみゝて　ゝ　ものゝ

かゝ　柏木ゝ　ゝ　ゝ　光院ノ

此事ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　源氏

ノ事也

ゝ

ゝハゝ

辛

夕雲

夕雲ハ柏木ハゝみをやゝ

愛敬つゝ　ゝ　ゝ　ゝ

しくみやうよりわ乱のあり様を
おもしろうハあらうまてし
商業者ともの方をうつ屋をみて
人くの思ふ心
いろ〳〵ごんうつふ草そうあるあと
寿
南方花の草ハ京文をみて
結ぶ時平の草ハ男性忠乃事な
と秋うりとあ所を書しとうり
久て吟し結ぶとゝ見河海性忠ノ
事と右将軍と称ス大ノ唐名
とハ将軍と号ス羽村大将軍幕
下ー　大樹ー　ヒ又右馬寄ノ
唐名を金吾将軍と以りてあり
花
右馬寄ハ唐名ハ金吾将軍ハ
右将軍ハ
松
草初ハ
おこ

[illegible]

[illegible]

天與若人吾不信　右將軍墓草初

秋　紀在昌　平朝臣

右大將保忠卒を悲れる詩　大江

時平公息男基房親王女ゆを代と也

此韻こる卒詩ハ秋しあると今あるあ

て考て通セ考ふ考ふ基公優美なる

を卯月ノ比ろれハ秋ノ字ハ[illegible]

お遠と書ノ字ハ[illegible]て所ものもろひ卒

詩ノ公しもあるすす眼おノ景ものし

かり紅ニ庭ハ[illegible]屋ノ[illegible]ものいろ若草

えるもろうかしこのもれこのもれのの

かれのもくハもあと取えるなと

あり如此又況撰ノ[illegible]なるさよあるとや実

紅言公任撰ノ和漢朗詠ニ法華古柳蹴

春雪玉色獲落老鶴懷ヶ秋有秋

声とあるハ公卒後ノ連昌宮ノ賦卒

ノ句ハ賦ニハ東韻ノ列ニテ有秋風ヒ
ありを又ハ風ハ庵對ニ四ツ風ハ音ノ
や声ノ字ニ成ルカ又ハ主ノ字ノ対ヒ
ニ海やうハ風ノ心ハ有テ興ありう
ひつゝ多ク雲華重ハ白ト涌ー
多花ハ大方郢曲ノ故実ハ
かやうの事ハ中世ノ先達ノ知ル
ラレシ事ニテ上古ノ口伝ハ
元大納言成通卿流ニ有テ此ノ
ものよう本を引事ハ覚うせんと
ものすれ共ハ有りしをあつて
ごとくなり世人ハ我ノ思ふ所ヲ
面白ようにひうつて加うるさめをなあ
すべしてあるべしとて海ヲ
をけの人感ーしけるとて沙ヲ
図書ノ後ハ昔西京洛聲華客ヒ
以朗詠ノ下句をハ江湖潦倒傷ウと
せるまゝ漢文をうつて景気を涌と

永年不可勝計
ましましけるとき世に
秘
某年六年代年うまれ
年
私勅方面言正三位陸奥出羽按察使兼行
右近衛大将藤原朝臣保忠長年
六年七月十四日薨四十七号八条
大将時平公一男年朝鳳筆元祖始
保忠年は初淳ノ時代にうまれ
ハさてをきて也〳〵てたてまつる
なるべき年をかぞへよこうりとさて
は人をあはれみいとり
私ちうとをうり保忠ノ年をもかぞ
へ人のやうよりはるかに奇特
又若年トニ右大将ノ高ーて補ー
給年はしめわれ共ノ多男右大
将まうりをへ人をもを保忠卿
よ四ひとせてうをを光今年くる年
秘
ちうことをうりとハ今右ノ心相ノ

あるしるし

むしてしさうをハさるものとして

元 むしてしきうとハ藝能のまこと実

しこ年寿

私むしてしきこハ有職を轉ずる感

うきけをてを仏

人りうきけをうき祈こ

うりを

秘 今上の御琴の師こ

寿 今上の御琴 物語ハ今上の御琴の師

あるれをりんれをこのこと

秘 りとひつをうきふ以り

月日りをこて有りり

源ハ大をこの世ふ以て又女この御

琴 董うとれを琴こ有りい為御琴

物をうを

おりりきみを

秘 ちはや

秘 ちはやぶるかも

倒のうたことあと

同しきせ

若葉トリ云トメト